

I-8 グループ学習

先生、これはグループだからできるんだ！

☆ グループ学習のねらいを明らかにする。

○ なぜグループで学習するのか、そのねらいを子どもたちと共有しておきましょう。

- ・ とりあえずグループにしておけば、子ども主体の学習になるのではない。
- ・ 教師の手が直接届かない時間・空間を意図的に設けることで、子ども同士の学び合いの力を引き出すことができる。

<ねらいの例>

- ・ 自分の考えを確かにして深めたり、新しい考えに気づき上げたりする。
- ・ 作業、実験、制作、話し合いなどを効果的に行い、学習効果を高める。
- ・ 自由な雰囲気をつくり、発表が苦手な子どもにも学習への積極的な参加を促す。



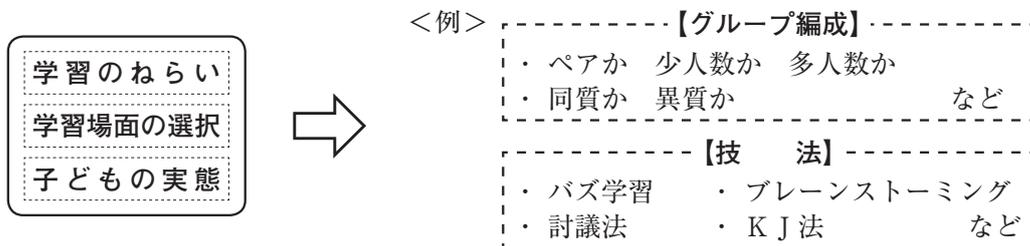
☆ グループ学習によって効果が上がる学習場面を選択する。

<学習場面例>

- ・ 多面的な思考が可能であったり、多様な解釈が必要であったりする場面
- ・ 対話によって、子どもが学習を深めたり、広げたりする必要がある場面
- ・ 多くの発想を出させたり、発想の質を高めたりする必要がある場面

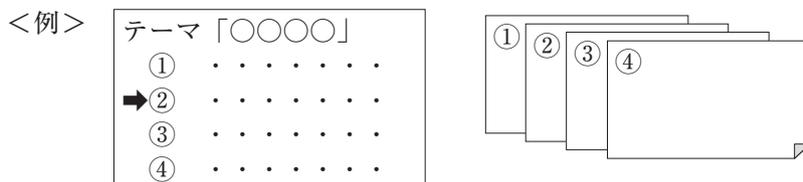
☆ グループを編成し、技法を選択する。

○ グループの編成に定型的なものが存在するわけではありません。学習のねらい、学習場面、子どもの実態などに応じて、最適なグループ編成や技法の選択をしましょう。



☆ グループ学習の効果を高める手立てを用意する。

○ 目的、活動の流れ、話し合っている話題、行っている作業などを、黒板やメモに書くことで、今やっていること、これからすることを、目に見える形で示します。



○ グループ学習の前後には、一人で考える時間や全体で交流する時間を設定します。

<例>

① 個人学習

- ・ 学習課題を明確にし、それに対する自分の考えがもてるように指導・助言する。
- ・ 一つの考えだけでなく複数の考えをもったり、筋道立てて自分の考えを話したりできるように、十分な時間を確保する。

↓

② グループ学習

- ・ グループ学習の目的を確認する。
- ・ 異質な考えをもった少人数のグループを、教師が編成する。
- ・ 進行、記録など、グループの中での役割を決めておく。
- ・ 多くの考えを出せるように、ブレインストーミングを設定する。

↓

③ 全体交流

- ・ グループで話し合ったことを、全体に伝える場をもつ。
- ・ 考えを比較しながら交流できるように、視点を明確にする。

↓

④ 個人での振り返り

- ・ 自分の考えの深まりや広がりを書き出すことにより、変容を確認する時間をつくる。

自分の考えを順番に言うだけで終わっていませんか。

グループ学習の目的は何かを意識して、意見を聞いてどうするのか大切です。



○ 役割の決め方、発言の順番、話し方・聞き方などを工夫します。

<例>

- ・ 司会者（進行）、記録者などを交代制にして、すべての子どもに機会を与える。
- ・ 初めのうちは、発言の順番を決めておく。
- ・ 初めのうちは、自分の考えの話し方と友達の考えの聞き方を、定型化する。
 - 発達に応じて、話し方・聞き方の定型を子どもたちと一緒に作る。
 - 発達に応じて、型にとらわれない話し方・聞き方を促す。
- ・ 困ったときは、教師に相談するように、前もって伝えておく。

発表する順番は、

次の司会は、

話す時は、

どんな聞き方をすればいいでしょうか。

困ったときは、



必然性のあるグループ学習！

豊かな学習は、子どものつぶやきやつまずきから生まれることが多いものです。グループ学習は、それを一斉学習よりも高い確率で実現する可能性をもっています。一人一人のつぶやきやつまずきを組織して授業を展開するために、まずはグループ学習に取り組む子どもの反応を丁寧に予想することから始めましょう。

わん！ポイント！

